

中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画  
見直しのためのヒアリング結果報告書

令和 4 年 3 月

中 間 市

## 目 次

---

第 1 章 ヒアリングの概要 .....	1
第 2 章 ヒアリングの結果 .....	2
I. 回答者の区分・事業分野について .....	2
II. 利用者を取り巻く環境について .....	3
III. 地域団体等との連携について .....	9

# 第1章 ヒアリングの概要

## I. 調査の目的

地域で活動している社会福祉法人や各種事業所から、地域との関わり方や地域福祉についての現状認識、地域団体との連携状況、連携意向などをうかがうことによって、今後の地域福祉推進の参考とするため

## II. 調査の対象

市内で活動している8社会福祉法人及び107事業所

## III. 調査の方法

郵送による配布、回収

## IV. 調査の期間

令和4年3月8日（火）から令和4年3月25日（金）まで

## V. 回収の結果

配布数：115件    有効回収数：61件    回収率：53.0%

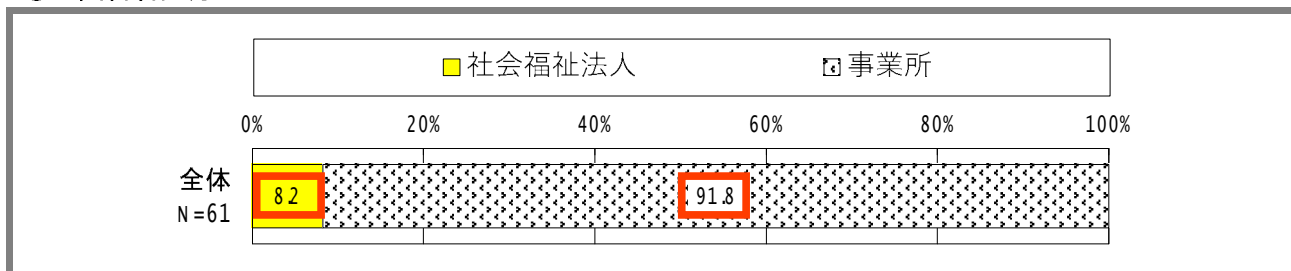
## VI. 報告書の見方

- （1）回答割合は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示している。小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- （2）複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える。

## 第2章 ヒアリングの結果

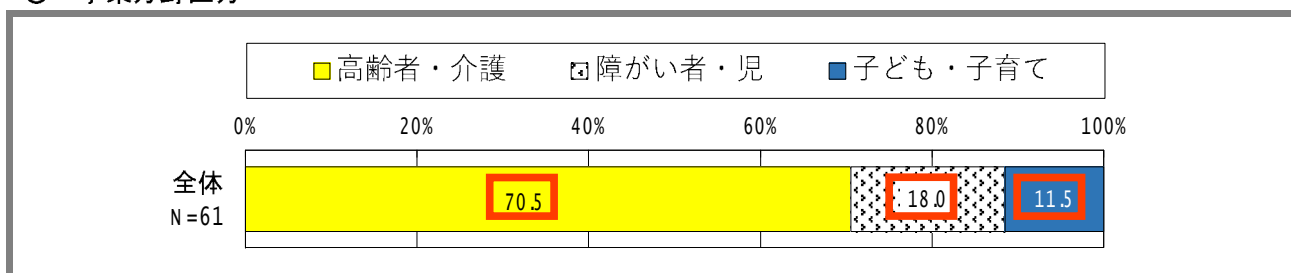
### I. 回答者の区分・事業分野について

#### ○ 回答者区分



- 回答者区分は、社会福祉法人は8.2%、事業所は91.8%となっている。

#### ○ 事業分野区分



- 回答者の事業分野区分は、高齢者・介護分野が70.5%、障がい者・児分野が18.0%、子ども・子育て分野が11.5%となっている。

## Ⅱ. 利用者を取り巻く環境について

### 1 利用者とその家族等が困っていることや、地域の生活課題とされていることをお答えください。

#### (1) 高齢者・介護分野

1	買い物、外出を希望するがひとりでは行けない。
2	病院や買い物に行きたいが困っている方が多くいらっしゃいます。独居の方の訴えが多く、事業所が無償で手伝いなど行っています。地域活動も認知度が低く、行きたくても行く事ができないようです。
3	認知症や受け入れ困難な方への対応できる事業所が必要。
4	坂が多いため買い物困難。遠賀川から鞍手側は医療機関が少ない。
5	買い物に行けない、近くに店がない。
6	買い物に行く手段や場所があまりないという声が聞かれます。
7	独居の方への地域の目をもっと活用してほしいです。
8	福祉バスの範囲を広くしてほしい。通っていない所がある。
9	高齢化が進み、老人を巡る介護問題など。
10	新型コロナウイルス感染防止のため外部への接触ができずにいます。ご利用者の機会がないことはもちろんのこと、家族との面会制限をさせていただいているため刺激が少ないように思います。
11	一人暮らしの方はデイから帰ってきてから食事、買い物をどうするか。認知症が進み、老々介護となり、次の施設が少ないし受け入れ困難でどうすればよいかと悩んでいる方が多い。
12	坂道が多く買い物に困る。イオンがなくなり出かける場所がなくなっている。出張販売が少ない。個別の乗り合いタクシーが必要。ごみのステーション化でゴミ出しができない人がある。シルバーのワンコインサービス利用について地域格差がある。
13	独居の方の生活支援。
14	老々介護等の理由による自宅での介護困難。
15	グループホームや小規模多機能、認知症の方への選択肢が少ない。
16	利用者様、家族様が望むサービスが使えず困っていると言われる。
17	買い物や通院などができる所が近くになく、毎回タクシーを使わないとならず金銭的な負担が大きい。
18	社会資源が少なく選択肢が少ない。
19	買い物をする場所がない。ケアマネージャーさんの受け入れ先がなくて断られて受け入れ先が中々見つからなかったと聞きました。シルバーさんでワンコインサービスをしていても急に断られて代わりを探してもらえないことがあったと聞きました。
20	坂が多く交通の便が悪い。高齢者にとって移動が困難。タクシー利用が多い。
21	坂が多く交通の便が悪い。高齢者にとって移動困難。タクシーを利用することが多くなっている。
22	高齢社会ということもあり、単身で生活している人や身寄りのない方に対する緊急時の対応が難しくなっています。
23	社会資源の不足。
24	坂道が多く高齢者にとっては外出意欲の低下になっている。買い物をする場所が減ったが公共交通機関が少なくお金がかかる。
25	高齢者同士の横の繋がりや地域を引っ張っていく人が少ないと思います。

26	独居の方など身体状況の急変等あった場合の連絡体制。
27	買い物や病院受診など。金銭面で困っている方もいる。
28	近所に買い物する所が無いことや通院に時間がかかること。
29	利用者の認知症問題、食の確保、夫婦の老々介護問題。
30	買い物、病院受診等、自力でできない方の支援や介護保険が利用できない方等の支援。
31	地域的に病院が少ない。買い物等、交通不便等、よく聞き取る事として多いです。
32	認知機能や歩行機能低下し、ひとりでの生活に不安がある利用者が多い。子どもさんは他県に住んでいたり、身寄りのない利用者がおられたりするので地域で独居高齢者の把握をする必要があると思われます。
33	独り暮らしの方で家族や地域の方とも交流がない。
34	老々介護の増加。認知症の増加。介護認定結果と実際の介護量のギャップが多い。
35	デイサービスについては認定結果次第で利用回数に制限がかかってしまうこと。地域の課題としては独居生活の方が多く、買い物に困っている方が多いです。実際に商品を手にとってみたいとの意見も多くタクシー代がかさむと言われております。
36	利用者の独居又は家族との同居についての意見や意思の相違。
37	高齢者の独り暮らし又は高齢者同士での在宅生活において、認知症上が進行した際の今後について等。
38	新型コロナウイルスの流行や老年期うつ病等によるひきこもり生活。
39	情報不足。困った時に初めて知る事が多いように思われます。高齢者福祉は介護保険が中心となってしまう、保険では救えない人が多くいる。

## (2) 障がい者・児分野

1	障がい児（者）に対してのトイレに介助用のベッドがほしい。ベッドに横になってオムツ交換等する為。車椅子用。ベビー用（赤ちゃん）では小さすぎる。
2	障がい者の住む所。グループホームの建設。
3	一番困っていることは金銭的な事で物価上昇もあり、生活に困っています。障がいに対する理解が思っている以上に足りない世の中であるため、色々な事（場面）で大変だと感じている方が多いです。
4	関係機関がたくさんありすぎて相談先がわからないという声をよく聞きます。また包括的なサービスを提供できる事業所がないこと。
5	利用者とその家族ともに支援が必要だと思われるケースがある。他の社会資源とのチーム支援が難しい。
6	共働き、一人親で療育されている場合、勤務時間に合わせた通所ができにくく、時間外対応の通所や急な入所に対応できる事業所がなく、ニーズに答えられない場合があるので検討してほしい。
7	障がいの重度化、保護者の高齢化
8	家族の入院時などその家族のまわりに支援できる環境が整わずに困った。地域の生活課題として市内に子どものショートステイができる緊急避難施設の確保が必要だと思います。

## (3) 子ども・子育て分野

1	近くにスーパー等、歩いて行ける施設が増えたらいい。
2	地域の横の繋がりが少なくなっている気がします。
3	幼児の健康状態。母親の育児相談。
4	利用者とその家族ともに支援が必要だと思われるケースがある。他の社会資源とのチーム支援が難しい。

## 2 利用者にとって今後必要になると思われることや、複合的なニーズについての事例等がありましたら教えてください。

## (1) 高齢者・介護分野

1	高齢者同士でコミュニティが行えるレストラン、楽しみや交流も提供する店舗（場）など。
2	地域活動を活発に行って介護予防（総合事業）のレベルの方は地域活動やインフォーマルサービスを利用してほしい。
3	安価で入りやすい施設が必要。
4	福祉避難所が少ない。災害時、商業施設の多くが浸水区域のため買い物ができなそう。
5	デイサービスとして買い物支援を行うことで買い物難民が改善するのではないかな。
6	在宅医療（寝たきりで身体を動かせない、付き添える家族がいない等で通院できないなど）。
7	外部との関わりが必要であること、地域の方に施設を知ってもらうこと。
8	老々介護に対する受け皿。重度認知症、糖尿病など基礎疾患あり歩行もふらつきがあるが昼夜も動き活動、妻や夫と一緒に暮らしたい→介護保険の縛りが少しのすきまにサービスができればと思います。
9	居場所づくり。要支援者など介護保険で利用が限られている方の活動の場。実費での利用受け入れができれば良い。
10	中間市全体を取り巻く入居入所施設の会合、意見交換会。
11	認知症の事業の取組みや市内の事業所同士の連携。
12	サービスの制限が出てきて必要なサービスが使えないと聞きました。
13	コミュニティバスや移動販売、その他の社会資源が少なく、さらに介護保険でも利用できるサービスも制限されることが増えてきたように感じます。
14	精神障がい者に対応できるヘルパーさんを増やす必要がある。
15	スーパーがないのでスーパーが移動販売で地域を回ってくれたらヘルパーの買い物代行も削減できると思います。また利用者さんも外へ出る意欲が持てると思います。
16	移動スーパー等買い物の援助。
17	高齢社会になり施設の入居待ちが多い状態になりつつあります。サービスの質などへの問題もあると思いますが、施設立ち上げのための融資制度があればと思います。
18	時代と共にニーズも変化していますが、求められる課題に対して満足のゆく支援ができない事例が増えているように感じます（家族の支援、施設、金銭問題など）。
19	医療と介護の連携、コロナ禍もありますが。
20	生活保護受給者や身寄りのない一人暮らしの方が死亡した場合の対策。
21	事例はありません。多様な生活支援サービスの確保や緊急時の地域での対応。
22	コロナ禍で外部との接触が困難な時の受診方法。

23	自由に買い物を楽しみたい（送迎や同行で荷物など持ってほしい）。
24	買い物へ行く場所が近くにない。
25	家族が遠方に住んでいる利用者にとっては定期巡回があれば安心なサービスの一つだと思います。
26	高齢化の進む地域における老老介護の増加に対してのフォロー。
27	利用者の住み慣れた地域での生活を望む場合の受け皿の幅。
28	独居生活者が多く、うつや認知症のリスクが高くなってくるので、なるべく外に出ていただき人との交流の中でリスクを少しでも減らしていくことが必要。
29	高齢者のみ世帯の増加。金銭的問題の増大。個別的案件に対してどこが対応するのか。

## （2）障がい者・児分野

1	外出しても中々トイレに行ってオムツ交換等ができない、外出（近場）ができない。
2	グループホーム、工賃の高い仕事。
3	障がいから高齢へのスムーズな移動。障がい者として受けられていたサービスが高齢（介護サービス）者となって受けられない事は困ります。
4	上記を含むニーズに対しそれを実現できるように事業所の拡大と移転オープンを予定しています。
5	工業団地行きのバスの運行。
6	利用者の高齢化に関して介護サービスは不安であるが、就労支援では（現代の）対応が難しい日中活動の場の提供。
7	母親や兄妹の入院に伴い生活支援が必要な事例に対して公的支援で利用できるものが少なかった。
8	親なき後の住居、金銭管理。
9	保育所、小中高への訪問支援（専門職）
10	令和3年9月～12月まで利用者の母親が入院時に小学5年生女兒と小学1年生男児（当事業所利用者）を受け入れてくれる施設がなく、岡垣町の母の家の入所を勧められました。市の各担当と協議しましたが、結論は出ず、直方市在住の70代の叔父さんが面倒を見ることになり、食糧支援を当事業所が行い、医療面から週3日の訪問看護にて3ヶ月支援しました。

## （3）子ども・子育て分野

1	支援が必要な子どもたちを他園が受け入れないと耳にする事があるのでもっとフラットな考え方の園が増えたらいいなと思っています。
2	利用者に寄り添った保育を心がける。
3	通院への補助。



### 3 既存の仕組みやサービス提供における課題等がありましたら、自由にお書きください。

#### (1) 高齢者・介護分野

1	地域の方に少しでもお手伝いできればと思いますが、人手不足の事が多く忙しいため協力することができないのが現状です。
2	市が先頭に立ち、事業所を巻き込んだ事業が必要。
3	シルバー人材やワンコイン有償ボランティアを検討したが、マッチングできず介護保険に頼らざるをえない。
4	デイサービス中の買い物は法的制限がある。
5	地域で行っている取組みがもっと誰でも簡単にわかるようにしてもらったらいいいと思います。
6	人材不足（医師、看護師）。
7	新型コロナウイルス感染防止により在宅サービスを休止させていただいております。令和3年11月に短期入所の再開をしましたが、クラスターなどで事業展開がうまくいかない状況です。
8	デイでは送迎時、一人暮らしの方は再度入浴の着替え等の確認をしたり、朝お迎え時電話確認したり行っている。送迎に対し細かいサービスを行っているが提供時間等に算定できない。
9	他介護事業所の情報が把握できない。
10	中間市は他市町村より介護認定が厳しく、サービスが受けにくいという話を聞きます（財源の問題？）。
11	介護サービスを利用者様のニーズという内容で無理難題を言ってこられる事がある。
12	早朝のゴミ出しの支援ができるワンコインサービスなど請け負う人がいない地域があります。また駐車スペースがないため訪問をお断りされるケースがあるそうです。
13	サービスの制限などが出てきていて困惑しています(利用者さんが)。サービスを提供している事業者さんが減っている。「中間だから」と言われます、なぜなのでしょう？
14	利用者様のニーズと家族のニーズが違う時の支援が難しいです。
15	介護認定等、介護保険の仕組みと医療と介護について進化しているとは思いますが、生きづらい時代だと思います。
16	ケアマネジャーに相談させて頂き、円滑に支援を進められるようにしています。
17	ヘルパー増員。
18	看護師、介護士などのスタッフの確保。
19	書類業務の多さが課題です。
20	福祉用具の導入による高齢者への安楽な生活の提供だけではなく、より可能な限り自立した生活が送れるようにするためのサービス提供ができるか。
21	グループホームでの課題にはなりますが、医療ニーズの高まりに伴い、訪問診療や訪問看護を活用している現状ですが、リハビリ関係においては医療保険外の為、施設職員が対応することが多く、専門的なリハビリを提供できていない状況です。そのため保険外の専門的なリハビリサービスがより手軽に起用できればご本人のADL低下にもつながると考えております。
22	介護保険が施行され社会福祉法人も競争原理の仕組みの中に入ってしまった。事業所間の協力体制、ネットワークが薄くなった。

(2) 障がい者・児分野

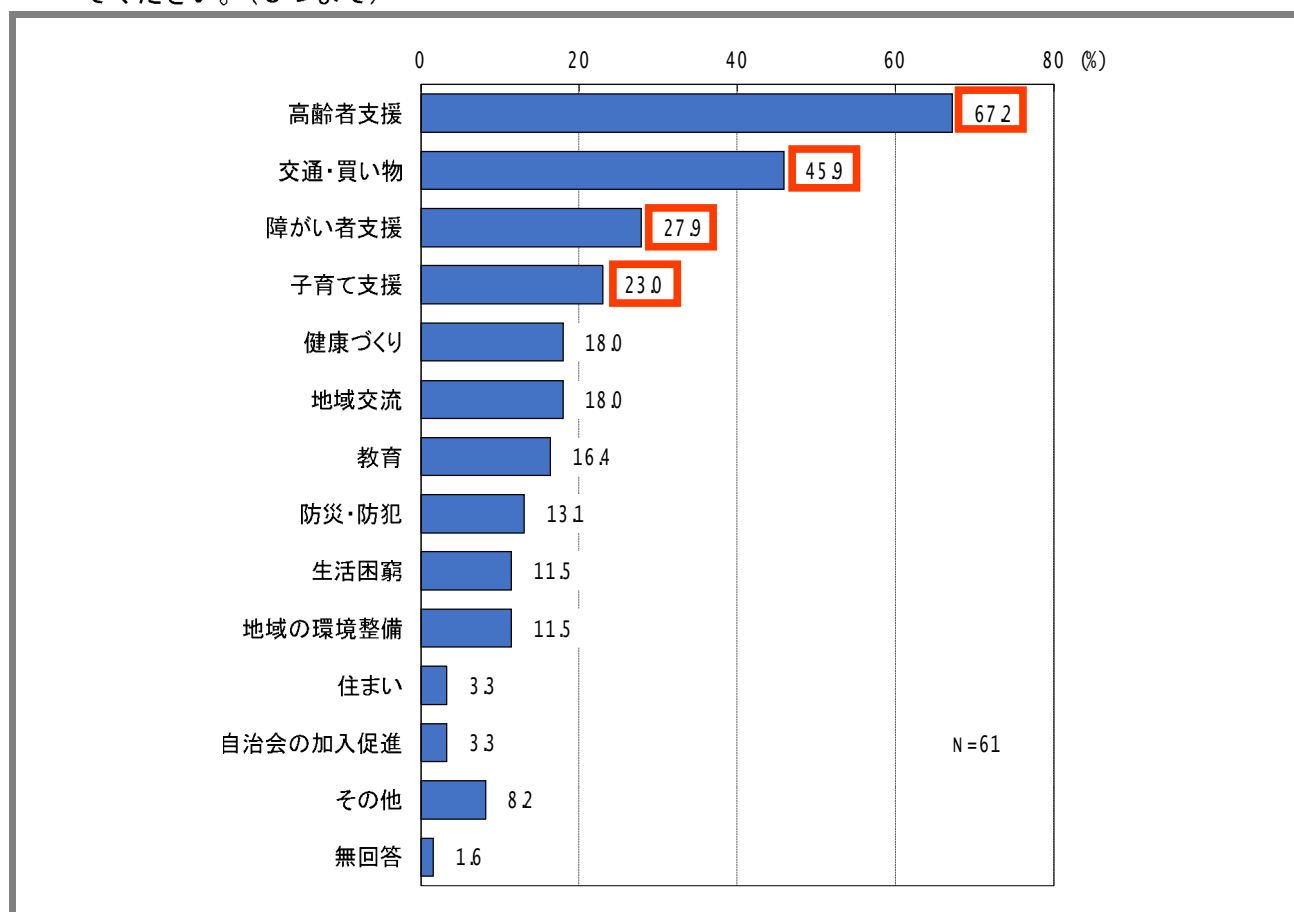
1	引きこもりなどの人たちの情報、存在と協力体制。
2	地域が障がい者に仕事、作業の場を沢山設けてほしい。市が事業所に紹介してほしい(例えば清掃サービスとか)。
3	更新時期を利用者の誕生月にしてほしい。
4	65才到達者の介護保険への移行。
5	保育所、幼稚園、学校(特に特別支援学級)との連携、相互理解。
6	サービス提供において例えば「自発的活動支援事業」「移動支援事業」など把握できていないのでいろいろ勉強します。

(3) 子ども・子育て分野

1	無償化の書類を簡素化してほしい。幼稚園教諭に対する手厚い補助制度があれば。圧倒的に不足しています。
2	通院。

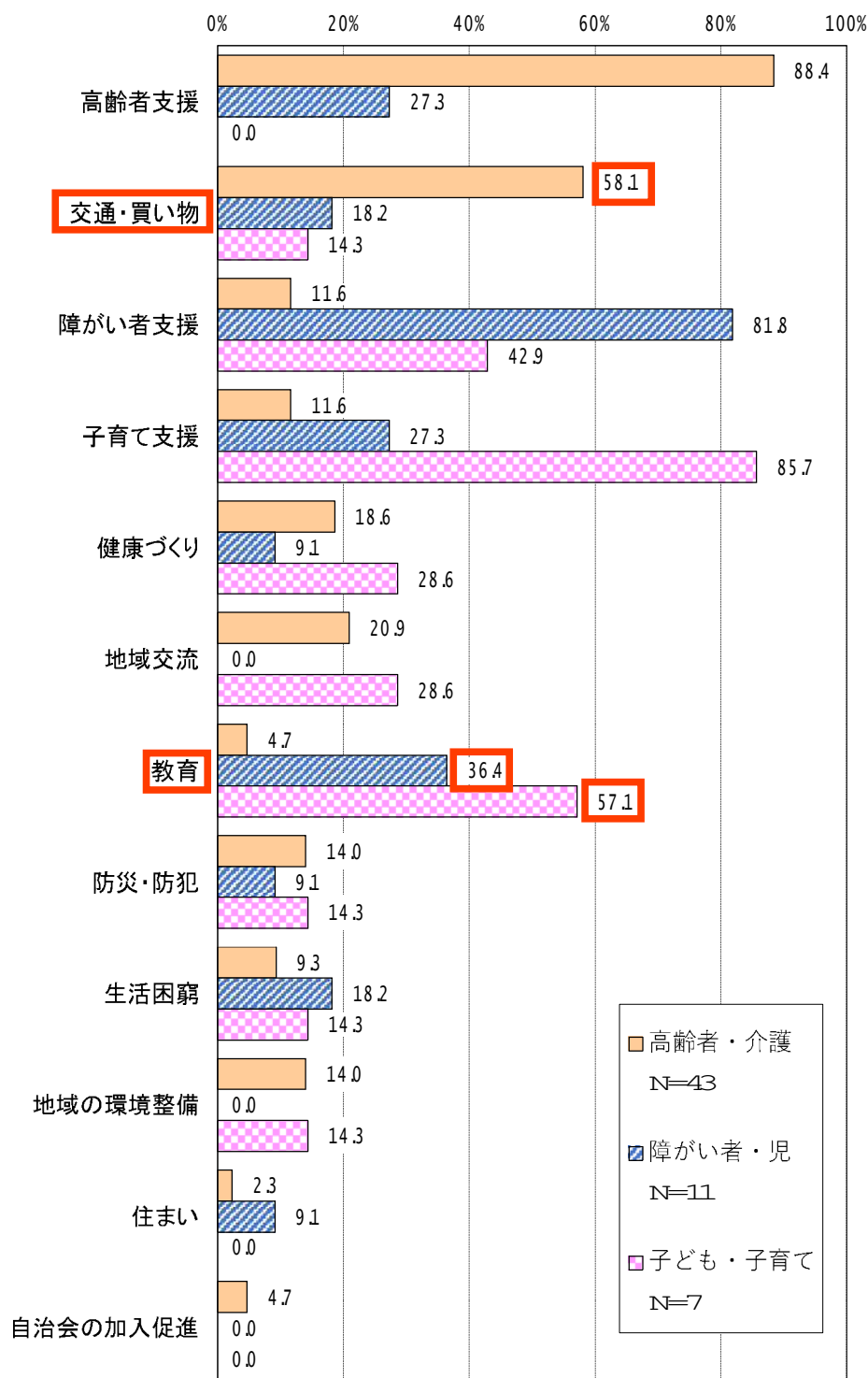
### Ⅲ. 地域団体等との連携について

- 1 現在、中間市が課題として考える分野のうち、貴法人・事業所が特に重要だと思うものに○をつけてください。(3つまで)



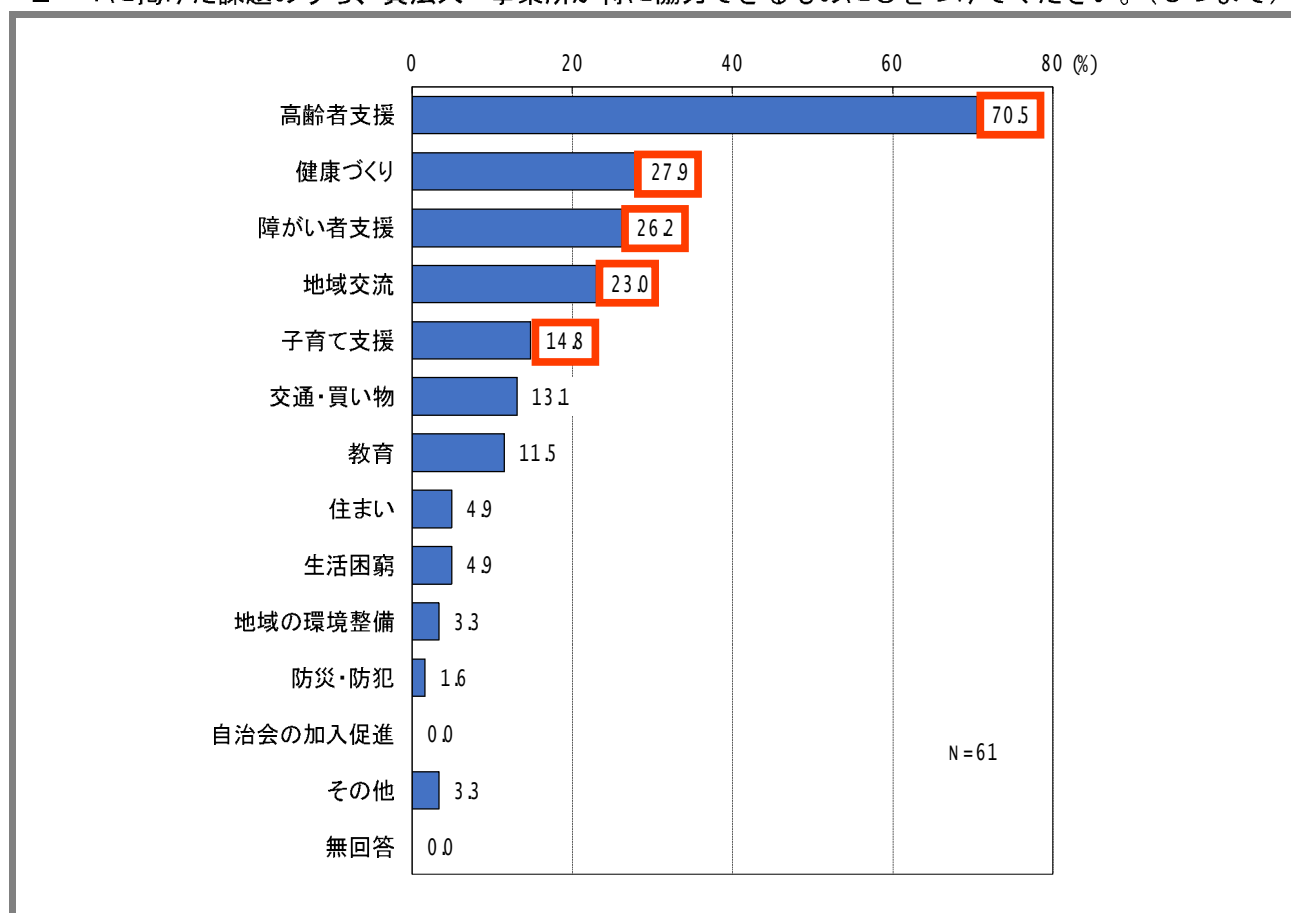
- 各種課題分野のうち、特に重要だと思うものとしては、「高齢者支援」が 67.2%と最も多く、以下、「交通・買い物」(45.9%)、「障がい者支援」(27.9%)、「子育て支援」(23.0%)と続いている。
- 「その他」の内容としては、「入院できる病院が少ない」「市の活性化、人の流入」があがっていた。

《事業分野別クロス集計結果》



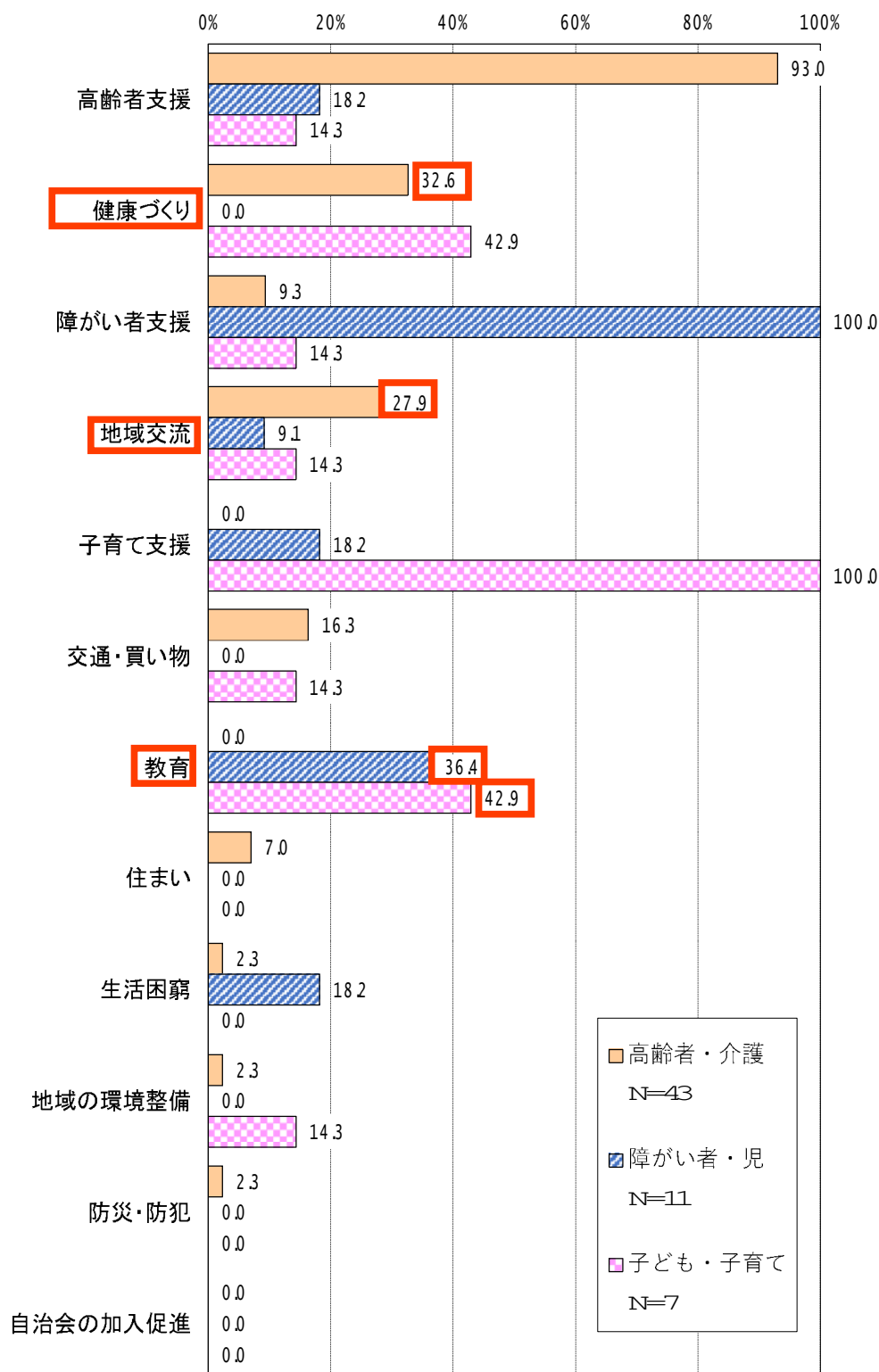
- 事業分野別に見ると、それぞれ直接関連のある分野の回答割合が高くなっているが、高齢者・介護分野では「交通・買い物」、障がい者・児分野及び子ども・子育て分野では「教育」の割合が高くなっている。

## 2 1に掲げた課題のうち、貴法人・事業所が特に協力できるものに○をつけてください。(3つまで)



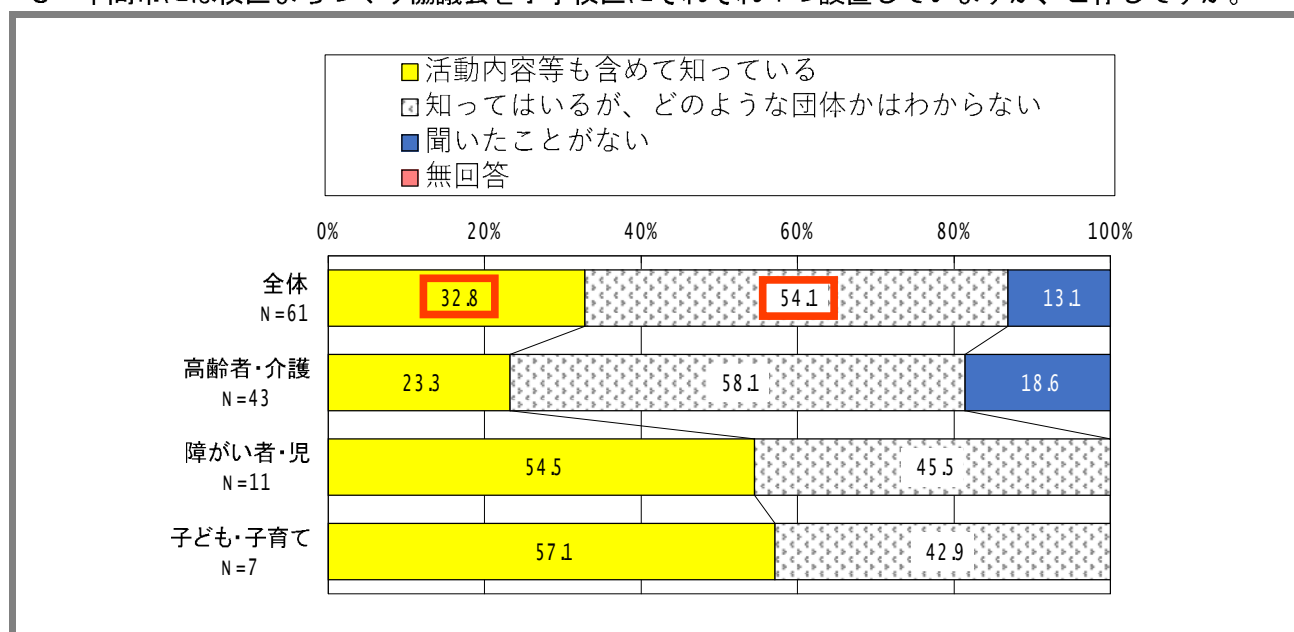
- 特に協力できる課題分野として最も回答割合が高かったのは「高齢者支援」(70.5%)で、以下、「健康づくり」(27.9%)、「障がい者支援」(26.2%)、「地域交流」(23.0%)、「子育て支援」(14.8%)と続いている。
- 「その他」の内容としては、「医療、介護での相談」「子ども食堂(高齢者も含む)」があがっていた。

《事業分野別クロス集計結果》



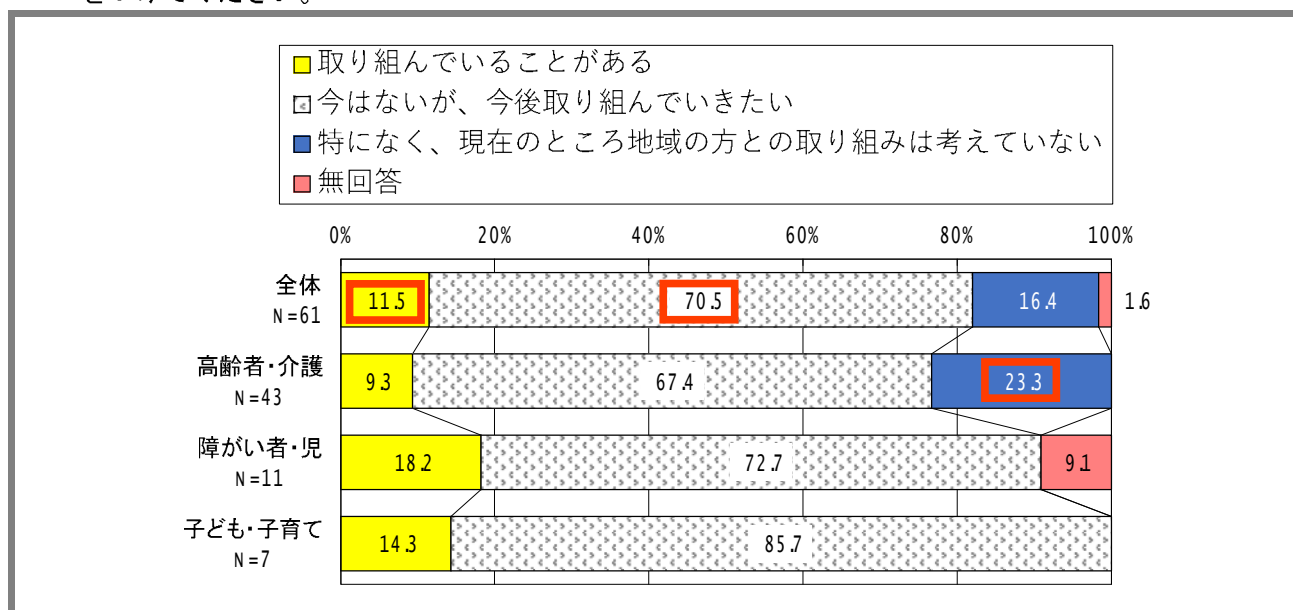
- 事業分野別に見ると、それぞれ専門分野の回答割合が高くなっているが、高齢者・介護分野では「健康づくり」や「地域交流」、障がい者・児分野及び子ども・子育て分野では「教育」の割合も高くなっている。

### 3 中間市には校区まちづくり協議会を小学校区にそれぞれ1つ設置していますが、ご存じですか。



- 校区まちづくり協議会について「活動内容等も含めて知っている」という回答は全体の32.8%で、「知ってはいるが、どのような団体かはわからない」が54.1%と最も多くなっている。
- 事業分野別に見ると、障がい者・児分野や子ども・子育て分野の団体に比べ高齢者・介護分野の団体の方が、校区まちづくり協議会に対する認知度が低くなっている。

- 4 中間市には校区まちづくり協議会、自治会、民生委員等、地域住民で構成された団体がありますが、貴法人・事業所が地域住民と協力して取り組んでいることはありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

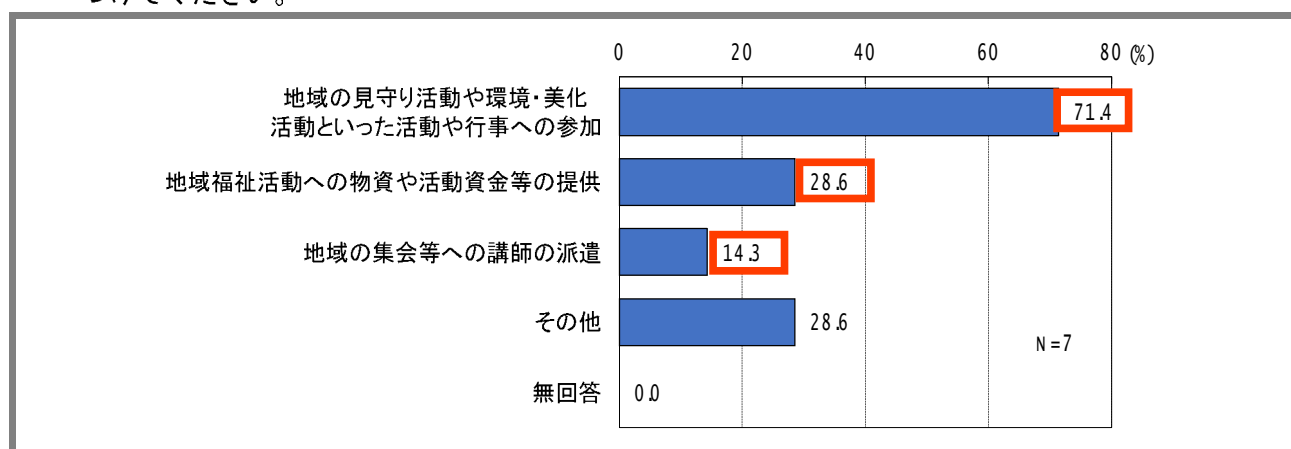


- 地域住民と協力して「取り組んでいることがある」と回答した事業所等の割合は全体の11.5%、「今はないが、今後取り組んでいきたい」と回答した事業所等の割合は70.5%となっている。
- 事業分野別に見ると、いずれの分野においても「取り組んでいることがある」と回答した事業所等の割合は高くはないが、障がい者・児分野や子ども・子育て分野の事業所等で「現在のところ地域の方との取り組みは考えていない」と回答したところはなく、高齢者・介護分野においても23.3%にとどまっている。



## 5 【4で「取り組んでいることがある」と回答した団体】

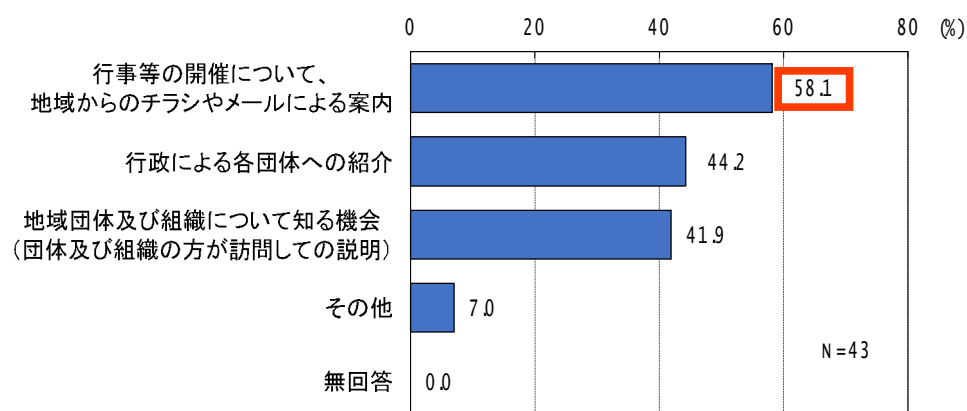
貴法人・事業所が地域住民と協力して取り組んでいることは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。



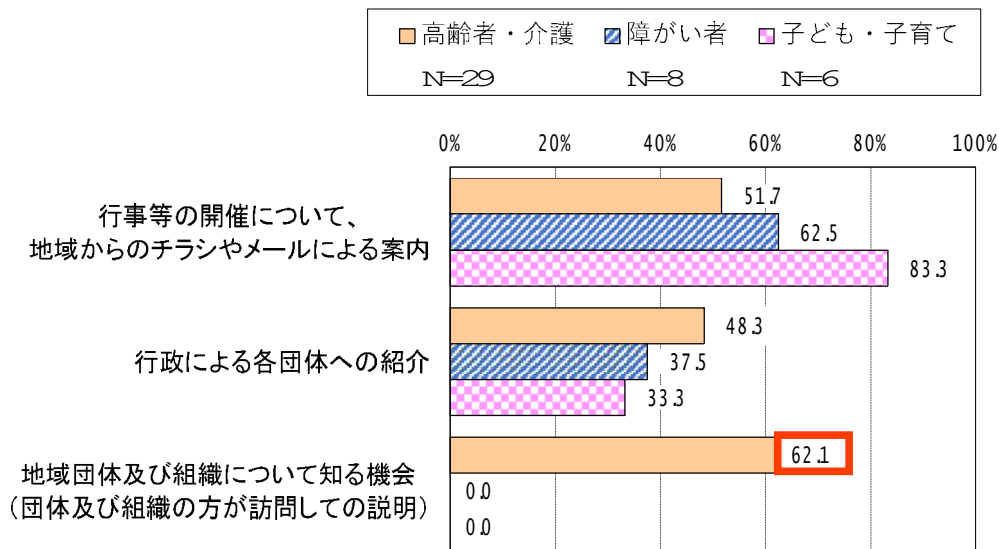
- 前問で地域住民と協力して「取り組んでいることがある」と回答した事業所等にその内容を尋ねたところ、「地域の見守り活動や環境・美化活動といった活動や行事への参加」が 71.4%、「地域福祉活動への物資や活動資金等の提供」が 28.6%、「地域の集会等への講師の派遣」が 14.3%となっている。
- 「その他」の内容としては、「地域住民が交流できる場、施設の提供」「地域の夏祭りや文化祭への参加」があがっていた。

# 6 【4で「今はないが、今後取り組んでいきたい」と回答した団体】

貴法人・事業所が地域住民と関わるために、どのような機会があれば関わりやすいと感じますか。  
当てはまるもの全てに○をつけてください。

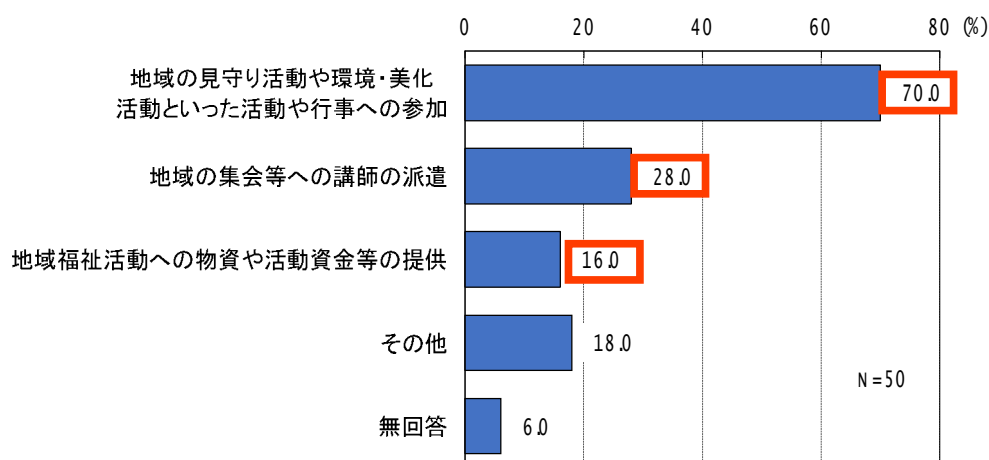


《事業分野別クロス集計結果》

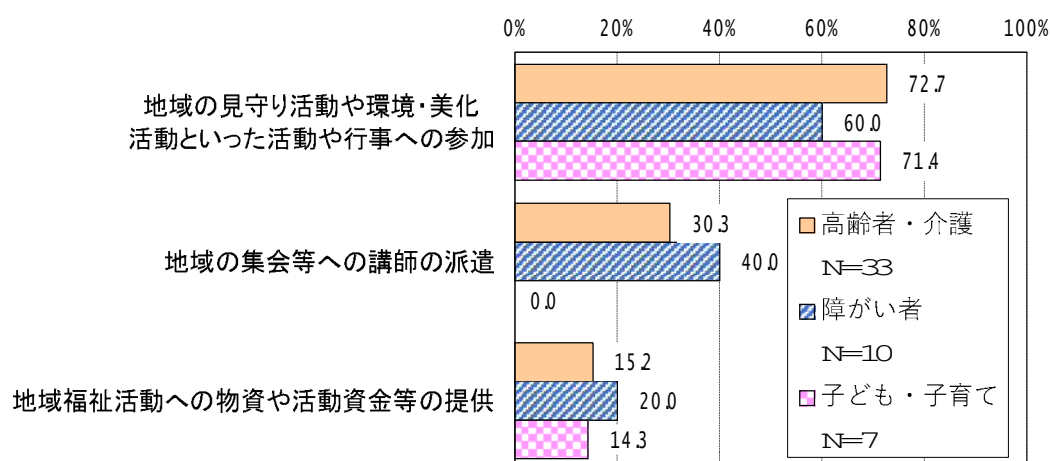


- 地域住民と協力して取り組んでいることについて、「今はないが、今後取り組んでいきたい」と回答した事業所等に、どのような機会があれば地域住民と関わりやすいと感じるか尋ねたところ、「行事等の開催について、地域からのチラシやメールによる案内」という回答が全体の 58.1%と最も高い割合となっている。
- 事業分野別に見ると、高齢者・介護分野の事業所等については、「地域団体及び組織について知る機会 (団体及び組織の方が訪問しての説明)」という回答割合が 62.1%と最も高くなっている。
- 「その他」の内容としては、「各団体にどのような関わりが求められているのか知りたい。民生委員さんとの交流の場があれば参加したい。」「みんなで外出が思うようにできないため、逆に施設の方に来てもらえると助かる。」という記載が見られた。

- 7 【4で「取り組んでいることがある」「今はないが、今後取り組んでいきたい」と回答した団体】  
貴法人・事業所が地域住民に協力できそうなことは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。



《事業分野別クロス集計結果》



- 地域住民に協力できそうなことについては、「地域の見守り活動や環境・美化活動といった活動や行事への参加」が全体の70.0%と最も多く、「地域の集会等への講師の派遣」が28.0%、「地域福祉活動への物資や活動資金等の提供」が16.0%となっている。
- 「その他」の内容としては、「災害時の避難場所として活用」「地域住民が交流できる場、施設の提供」「環境美化活動」「当施設を解放し、運動の提供や趣味等を行う、コミュニティの場所」「福祉サービスや通所支援についての説明、利用への相談」「子どもと高齢者との交流等」があがっていた。

## 8 地域の福祉活動について、貴法人・事業所が地域住民と一緒に実施したいことは何かありますか。

## (1) 高齢者・介護分野

1	近隣の清掃活動を地域住民と行う事。
2	地域の方が困っている事の相談。
3	認知症カフェ。
4	まずは地域との交流の場が定期的であれば、そこから何かできる事を一緒に考えていきたいです。
5	通谷地区の活動に参加させていただきたいと考えています。
6	デイサービスの多目的室にてコロナ禍前は月1回カフェを開いていました（現在休止中）。まだまだ認知度が低いため利用は少ないですが、地域住民の方と一緒に何かできればと思います。
7	どのようなことが行われているか分からないが、清掃デーの参加やカフェの開催など。
8	老人会等に参加。
9	認知症の方の行方不明者捜索訓練。
10	避難訓練。
11	避難訓練。
12	避難訓練。
13	避難訓練。
14	必要性があれば協力したい。
15	地域活動の場所の提供。
16	各種イベントへの参加。
17	上記活動(地域の夏祭りや文化祭)等に先々協力させて頂ければと考えております。
18	介護予防教室や介護相談。

## (2) 障がい者・児分野

1	子ども食堂運営。
2	事業所がある所は高齢化が進んでおり、地域住民が困っている時に立ち寄っていただいて、協力できれば出来る事はしたいと思っています。
3	障がい者と高齢者、健常者がこの狭い中間市で共に住み暮らすための啓蒙活動や会議等をしてみたいです。
4	高齢者や引きこもっている若者とフリーマーケットや困りごとの相互支援などやってみたい。
5	子育ての不安に対して相談を受けていただきたい。
6	参加できる福祉活動があれば一緒に実施したい。
7	事業所周辺の美化活動。
8	地域共生社会を目指して子ども食堂や一人住まいの方の交流を通して中間市が市民一人一人を大事にしていることを発信します。

## (3) 子ども・子育て分野

1	美化活動
2	町を美化する活動等。
3	健康づくり。
4	いきいきサロンへの参加。

## 9 貴法人・事業所が地域住民に協力していただきたいことがあれば自由にお書きください。

### (1) 高齢者・介護分野

1	ボランティア活動として傾聴ボランティア、折り紙や手芸などの作品を教えてもらうなど（デイサービス）。
2	傾聴ボランティアさんやレク等、協力して頂ければ助かります。
3	気楽に施設に寄ってお話やボランティアで色々と一緒に考えていきたいと思っています。
4	当事業所の認知度が低く相談などが少ない。認知していただきたい。
5	避難訓練の参加。
6	避難訓練への参加。
7	避難訓練への参加。
8	避難訓練の参加。
9	健康観察や看護への在宅支援の協力。
10	コロナ禍だからこそ運動の大切さや重要性を発信して頂きたい。
11	地域密着運営推進会議への出席。
12	福祉用具について「こんな製品が欲しい」「こんな部分で困っている」等の要望や情報があれば提供してほしい。
13	現状地域の一員として迎え入れて下さっているので特にありません。
14	ボランティア活動、災害発生時の協力体制。

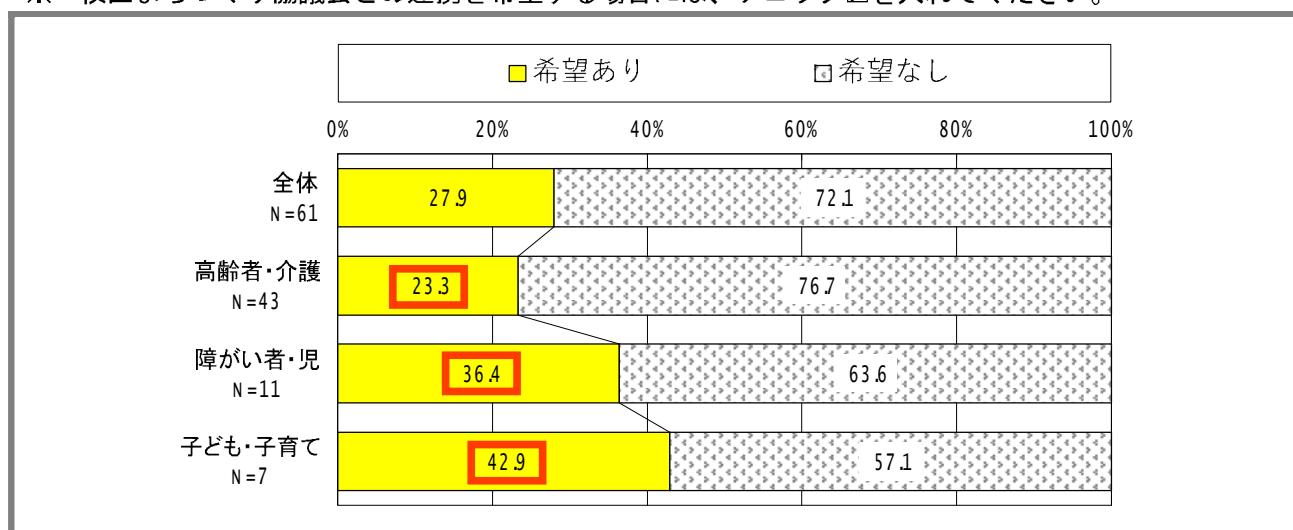
### (2) 障がい者・児分野

1	行事、企画等への参加、強力、援助。
2	事業所に通っている利用者様と散歩、買い物に出かける事もあり、その際はお声をかけていただければと思います。
3	私たちは移転を予定しています。移転後も地域住民の方々と協力し、住み良い中間市を維持する一助になれば幸いです。
4	障がい者、児に対して理解し見守ってほしい。
5	障がい者差別解消法に基づく障がい者への理解。
6	コロナ禍が落ち着いたら行事に参加して頂き交流を深めたいです。障がいに関わらず地域皆さんで子ども達を見守って育ててほしいです。

### (3) 子ども・子育て分野

1	子どもたちとお散歩中などにあいさつをしたら返事をしてほしい。
2	交流ができればと思います。
3	福祉活動。

※ 校区まちづくり協議会との連携を希望する場合には、チェック☑を入れてください。



- 校区まちづくり協議会との連携を希望する事業所等の割合は、高齢者・介護分野では 23.3%、障がい者・児分野では 36.4%、子ども・子育て分野では 42.9%となっている。

**中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画  
見直しのためのヒアリング結果報告書**

**令和4年3月**

---

◆発行 福岡県中間市  
〒809-8501 福岡県中間市中間一丁目1番1号  
事務局：福祉支援課 福祉政策係  
TEL 093-246-6270  
FAX 093-244-0579

---